

富山縣護國神社御創立百周年記念庭園

『平成の御庭』について

富山縣護國神社遺芳館は終戦五十周年記念事業として平成七年に建設、開館致しました。其の前庭に就きましては豫てより『英靈の遺書、遺品』を始め数々の品々を展示するに、より相應しいものとしたいと考へてをりました。そして、此度平成二十五年秋、富山縣護國神社が創立百周年といふ廉ある年を迎へるに當り、その記念事業の一環として『平成の御庭』として整備することとなつた次第であります。

此の『平成の御庭』整備計画に際しましては正に神々の縁とも言ふべき尊い出来事が起こつたのであります。

それは、橘正則氏の意匠により御自身が所有してをられた、初代公選市長、尾山三郎家の庭を照らしてゐた春日大燈籠一基を、又庭石を神岡鑛山片山一郎邸解体されるに當り庭石一式を、さらに御門は元衆議院議員内藤隆家の御門一字を各々縁があつて寄贈されることになつたと言ふ三つの出来事であります。尾山家の春日大燈籠は、昭和二十年八月一日深夜の富山大空襲の戦災の折に、猛炎を受けたものであり富山市にとつて忘れることができない出来事の證してあります。又、内藤隆家の御門は、戦後の復興に力を盡された大政治家の遺品とでも言ふべきものであります。さらに神岡鑛山片山一郎邸の御庭の庭石は、神通川の遙か上流飛騨古川の谷より採られた由緒深いものであり、これも神通川清流の畔にたつこの富山縣護國神社と深い縁を感ずるのであります。更に縁とは不思議なもので、いよいよ門を建てることになり、その「ふみ石」をどうすれば良いか悩んでゐる時、小矢部石が一番といふことを聞き、水口造園様に一番相應しい石があるが、わけていただけるか難しいといふことが、私の耳に入り、水口造園こそ、この神社とゆかり深いことを話しをすると同時に、福光才川七の水口様に会ひに行くと、トントン拍子で決まり、奉納が決まつたのであります。當に不思議な縁を感ぜざるを得ないのであります。

以上のやうな経緯を踏まへつ、北陸では珍しい「苔」庭として、常に豊かな緑をたたへた空間をつくり、國のためつくされた戦歿英靈の御遺徳を偲ぶに足る『平成の御庭』といたしました。

平成二十一年四月十日